

# 北 ぞらくろあ

第98号 2024年5月1日（毎月1日発行）



八川駅で停車する列車



八川八幡神社の桜咲く参道

## 木次線ストロール⑧ 桜巡りの旅

### 「桜並木を走る列車と 中国地方随一の桜の名所」

木次線の桜巡りに出掛けたのは、4月8日の月曜日。先週の半ばには庄原市内の桜は満開で、奥出雲の桜はもう終わっているだろうかと心配していたのだが、天候が悪い日が続いて気温も下がり、どうにか間に合った。ちなみに、去年の芸備線の桜巡りは4月3日だった。

庄原の自宅を車で出たのが午前8時半過ぎ、今日も小雨が降っている。芸備線の沿線の桜はもうかなり散ってしまっているが、黄色い菜の花が満開で目を楽ませてくれる。とくに比婆山駅を過ぎてからの国道183号線沿道はまた、まった菜の花の群生が見られて、もう少し手を加えれば「峠の菜の

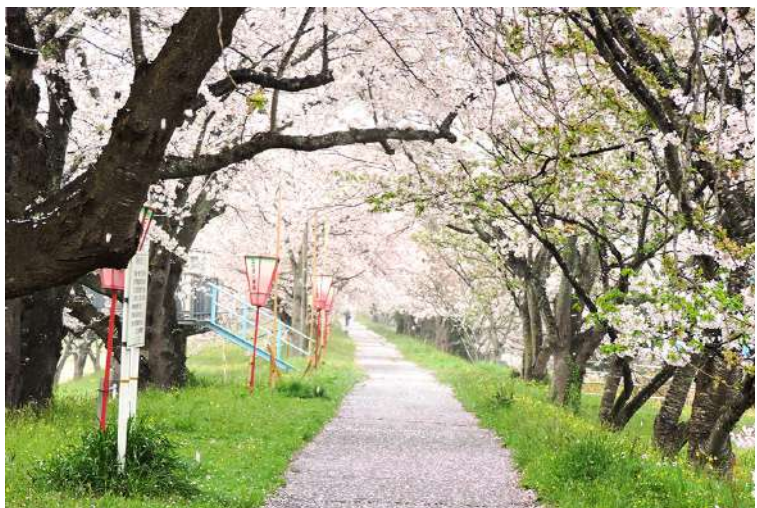
花街道」として観光資源になるのではと、獲らぬ狸を思い描いた。備後落合駅の手前を国道314号線に左折して、上り坂を油木川と並走する。油木駅のそばのゲートボール場の桜は、開花が遅い種類なのか、まだ蕾のままだった。三井野原駅を超えて、おろちループを下る。

出雲坂根駅を過ぎた所に桜並木がある。到着したのは10時前で、カメラを用意して待機。この桜並木は、木次線の線路の沿線にある。やがて、出雲坂根駅10時6分発の列車が姿を見せた。旧来のオレンジの車体。斐伊（ひい）川堤防の桜を表すピンク色のラッピング列車なら最高だったのだが、桜並木のそばを走る列車（写真上）は絵になる光景である。

撮影後に次の八川駅に向かった。駅舎のホームの反対側にある桜並木を撮ろうとしていたら、列車が入って来るとの放送があった。いつの間にか車で追い越していたらしい。狙っていたわけではないが、桜の咲く八川駅に停車する列車を撮る幸運に恵まれた。八川駅の近くにある八川八幡神社を再訪、参道の桜が満開で、いつに



久野川治いの「紅豊」の並木



三刀屋川堤防の桜並木

三刀屋川の桜のほとんどは、昭和33年に三刀屋町商工会により植えられたものだという。わたしと同年。同期の桜のトンネルを、花びらの絨毯を踏みしめながら歩く。お互い、まだまだこれからだよ！

屋川の堤防の桜並木が見えてくる。これがまた凄いです。三刀屋橋の上から眺めると、両岸の堤防に延々と桜並木が続いている。その数約千本、距離約2キロと木次に負けていない。淡い緑色にピンクの筋が入った八重桜の御衣黄が有名で、その数約120本。満開にはまだ少し早いようだった。

も増してありがたい気持ちにさせていた

次は出雲横田駅。横田の町は、至る所に桜並木がある。斐伊川と木次線の上にかげられた橋(重国跨線橋)からは、川と線路が並走する遠景が一望できる。川の土手の桜と列車を撮るためだろう、巨大な望遠レンズのカメラを三脚に据えて、女性カメラマンが橋の上で待機している。

お薦めは「横田公園」の駐車場。野球場や陸上競技場もある広大な公園の駐車場で、桜並木に囲まれている。車の窓を全開にして、軽快なジャズのCDを聴き

ながら、座席を倒して寝そべってしばし花見を楽しんだ。

稲田神社を再訪、背の高い山桜が境内を飾っているが、かなり姥桜か。姫のそばゆかり庵で昼食の予定が、月曜日だから「準備中」。314号線に戻って、友人推奨の「一風庵」に入った。天ぷら割子蕎麦とフキノトウ味噌のおむすびを注文。天ぷらがパリパリで、初めて食べたミニトマトの天ぷらには驚いた。店内がほぼ満席なのも頷ける。

次に亀嵩駅に行くつもりが、道を間違えて出雲三成駅の前に出てし

まった。引き返す元気はなく、この先の木次線はまだレポートしてないので、このまま木次まで走ることにする。雨足が少し強くなった。

木次の桜には圧倒された。「斐伊川堤防桜並木」はとくに有名で、「日本さくら名所百選」にも選ばれている。約八百本の桜のトンネルは、全長約2キロ。中国地方随一の桜の名所と喧伝されるのも納得。さくら祭りの期間中で、月曜日で雨が降っているのに、かなりの人出で賑わっている。夜店の屋台も多く、粒あん入りのタイヤキで一人花見。次回はのんびり

一泊して、ぼんぼりに照らされた夜桜も見てみたいと思った。

支流の久野川治いの土手には、ピンク色の強い花の桜が植生されていて、「紅豊」という名札が掛けられていた。ソメイヨシノを中心に、サトザクラやヤマザクラなど品種も豊富のようだ。日帰り入浴施設の「木次健康温泉センターおろち湯つたり館」で、花冷えの雨に濡れた体を温めた。駐車場の八重桜の並木も満開である。斐伊川治いの県道45号線を少し北上すると、国道54号線と交差する。左折して三刀屋方面に進むと、三刀



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

## 「南海漂蕩」

岡谷公二 著 富山房

「ミクロネシアに魅せられた土方久功、杉浦佐助、中島敦」の副題。作家の中島敦の南洋庁(南洋群島を統治するための日本の施政機関)時代のことを知りたくて、この本にたどり着いた。土方久功は彫刻家で、昭和4年にパラオに渡り、昭和19年に帰国するまで島々を巡りながら彫刻や絵画を制作、民俗学者としても評価されている。杉浦佐助はその弟子で、日本では大工だったという。



パラオ滞在8カ月中島敦が「南島譚」や「環礁」といった芳醇な短編集を書いた理由がわかった。土方の調査記録を読んだり話を聞いているのだ。土方よりも3歳年上の弟子、佐助さんの境涯も破天荒。

## 「善人長屋」

西城奈加 著 新潮文庫

時代小説がよく売れている。女性作家の台頭が目覚ましい。とくに人情ものが人気。いくつか読んでみたが、うまいなあと感嘆したのがこの作品。「善人長屋」と呼ばれ、住人は良い人ばかりと評判だが、本業は裏家業の犯罪者ばかり。盗品を捌く窩主(けいず)買い、情報屋、美人局等々。そんな悪の巣窟に、根っからの善人である加助が転がり込んで、おせっかいの人助で騒動を待ちこんでくる……。



悪党だが、俠気のある長屋の住人たちが裏の技能を駆使して加助の尻拭いをするのだが、推理小説としても相当のレベル。NHKでドラマ化、漫画にもなっている。

## 「おくりびと」

さそうあきら 著 小学館

アカデミー賞の外国映画賞を受賞した映画作品の漫画化。所属するオーケストラが解散して、失意のうちに夫婦で山形に帰郷したチェロ奏者の大悟は、生活のために地元で就職する。社名から旅行代理店と勘違いしていたが、実際は遺体の納棺師を生業とする会社だった。自殺死体や腐乱死体、周囲の偏見等々、大悟は退社を決意するが、「おくりびと」の担う重責に気づいてゆく……。



さそうあきらの情感溢れる絵柄がいい。田舎町の住民の、好人物だが狭量な小市民性を描いて、身につまされる。納棺師は、おくる人々の心も癒すのだと感じ入った。漫画だけで胸いっぱい、映画は観ていない。

## 「ぐんぐん伸びよう会」

(教室：庄原市川西町241 連絡先：080-3631-9125 やないたえこ)

### 自学自習力を育てる (2)

小学生、中学生の間に、いつも大人に頼って勉強するのではなく、つらいこともあるけど自分自身の頭を使って、例題をしっかりと読み取り(理解)、問題を解いていくことを継続していくことこそ、学力の向上のみならず、生きる上で欠かすことのできない根気、忍耐力を身に付けることができます。

### 黒板のない教室



旧米沢高等工業学校本館

無料体験学習受付中!! お気軽に問い合わせくださいね。

対象者:0歳~小学6年生

## 文学探訪

# 人生探訪の徒、倉田百三の流転③ 短歌への執心、直子と「アララギ」に投稿

## 音谷健郎

倉田百三は、言葉への感度が高く、旧制三次中学校に入った頃から短歌をはじめ、旧制第一高校では校友誌に短歌を投稿したりしています。生涯に七〇〇首くらいの短歌を詠み、五〇〇首の短歌が残っています。その変遷を辿るだけでも、思索の過程が覗えるような気になります。歌に託した心意気と、細やかな心遣いなどが、同時に歌に託されているのが特徴のように思えます。

百三は旧制三次中学に入学すると、文芸部に入ります。そこで早速、短歌を投稿しています。同級生で親友

の中村（香川）三之介やその兄で文芸部長だった憲吉（後に歌誌「アララギ」の主要メンバー）に影響されたとされます。そういえば、趣味の多かった父・吾作は俳句に凝（こ）っていました。

旧制中学時代の百三の短歌で残っているのは――

- ・椰子（やし）の森出でてをたけぶ荒獅（しし）の聲ものすごし月のエジプト
- ・潮さみの浜辺にたちてたからかに唐歌誦（ず）せば朝日のいづる
- ・海の底にうすき日させば我住まん



『出家とその弟子』を出した  
大正6年ころの百三



昭和17年の百三



直子、昭和10年代、  
東京大森の家で

髪の毛の如き草ついでばみて  
当時のやりりの象徴詩をおもわす  
歌風です。想像力の自在さに感動を  
覚えます。百三の歌心の原点なのだ  
と思えば感慨深いです。

ここでお断りしておきますが、取り上げる短歌の多くが、西田寿吉著『倉田百三への旅』（昭和61年刊）の恩恵に預かっています。百三の郷里、庄原でありながら手にすることの出来る百三の著作物がごくわずかなためです。

次には、一高の1年生の時、校友会誌に投稿した短歌から――

- ・今宵また寮をのがれてきむぎむとしぐるる街をひとり行くかな
- ・生れたりげにこのことが大いなるつぐのひがたき罪なりしかな
- ・黒髪は冷めたかりけり熱き頬にその冷めたさが忘れられなくに

校友誌の論評で気炎を吐いた「動」の百三の「静」なる内面を見せています。

一高を病気退学した、失意の時代にも短歌を作っています――

・妹が家にきたりて見ればものみな  
は小さくつましく涙ぐましも

・山峡のさびしき湖に吾妹子と二人  
し対（むか）ひ涙ぐみ居り

・なれぬれば涙は出でず病み継がむ  
幾日がうちの費え計るも

百三の沈んだ心は隠せません。首かせのようなコルセットに縛られた三〇代の闘病生活の中で、希望を失わない歌に惹かれます。

大正13年、33歳の時、伊吹山直子と正式に結婚しますが、子どもはなく、引きこもりがちな直子との結婚生活に潤いをと、2人で「アララギ」の島木赤彦に短歌の指導を乞います。そこでの短歌――

- ・此頃の吾れの心のさやけさや来る朝々をただに迎ふる
- ・擦りならす籠の鈴虫翅を痛み生きの苦しく聲を引き居り
- ・病み床を少しずらせば樋（とい）の上に積もれる雪の深々と見ゆ
- ・夜もすがら痰からまりていねがてに親しき人の名頼り数へけり

## ◆百三と短歌◆

1904(明治37)年・旧制三次中学に入学、校友会誌「巴峽」や回覧雑誌「白帆」に短歌投稿

1913(大正2)年・一高校友雑誌に「わがいのちの歌」13首を発表

・3月、同校友会誌に「蘇へる春」17首を発表

1920(大正9)年・戯曲『歌わぬ人』を出版

1923(大正12)年6月・島木赤彦に短歌の指導を乞う

1925(大正14)年・小論「求道上より見たる歌道小見」を「アララギ」新年号に発表

・小論「しがらみを読む」(赤彦の歌論「歌道小見」批評)を同5月号に発表

・小論「太虚集を読みて」(島木赤彦の『太虚集』批評)を同太虚集批評号に発表

1926(大正15)年・「アララギ」に180首発表

・島木赤彦死没

1932(昭和7)年7月・『倉田百三歌集』(70題目、430首)

1940(昭和15)年・自伝的小説『光り合ういのち』の中で、尾道の神社の少女と短歌のやりとりをリアルに描く

・コルセット身にとりはめて庭ぬちをひとまはりして朝したしむ  
実妹の艶子『兄百三』によると、直子との間に何か一つ共通したものをもちたいと2人で「アララギ」を編集する赤彦の指導を乞うたのです。大正13年のことです。百三の歌は、最初は「アララギ」の赤彦選歌に載ったのですが、ほどなく「同人欄」に昇格し、「頭株の十番目頃を上下し

た」と艶子。直子も好調子で、「赤彦に褒められ、(今井)邦子、藤子、不二子あたりと並んでいた」と、これも艶子。  
艶子は続けて言っています。「(アララギでの)短歌の数は百七十九首、然もこの時代の兄の短歌が、一生涯中の彼の短歌の一番全盛期であった。年月で云うと僅か二年半。兄の年齢で云ふと、34歳から36歳までである」

と。  
艶子が、注目した短歌を取り出す――  
此の岬(さき)伊豆まで続く大海不二の高嶺に雲は捲きをり  
波がたにのこりし砂の藻くづあと  
この引き潮ののちのさやけさ  
・余しがたあきつ去りにし合歡の葉に足長蜂の来て止まりつる  
ゆったりとして繊細なこれらの歌の調子は、この時期の百三の精神の安定を想像させます。

・人類を愛することの絶対の現実なるぞアメリカをうて  
・日の本の憂ひの時を病み臥やり悔しきかもよ言挙げがてぬ  
・筆剣(つるぎ)一つなりけり競ひたつうたびとわれらますらをわれら  
以下二首は、新国学協会「ひむがし」に昭和18年3月号掲載のものです。手を抜くことなく、全身で歌っています。  
・むら肝の胸より胸に通ふらくこのあたたかくつゆけきものは  
・病めりとも天地にふかくひそむなる神の休徴(きび)にあふがうれしく

しかし、百三は「短歌はどうも、時間をたくさん食うのでね」と云って、アララギへの投稿をばったり止めたと言います。赤彦が死没した頃とも重なります。その後、百三は歌作を止めたわけではないのですが、雑誌に載せることがなくなると艶子は記しています。

艶子の感想で、印象的なのは、百三が昭和8年頃から政治的な活動に向かい、それに連動した短歌となったことですね――

しかし、艶子は、「晩年の兄の歌は、私はどうも好かない。それは一種の政事的道歌のような感じがするからである」と、きっぱり言っています。いつも、兄の側だった艶子にしては珍しい強い態度です。  
心優しい百三の短歌を晩年まで辿ると、どこで道を迷ったのかと不思議な気分になります。日々の暮らしに深く感動する百三の歌が、何を契機にそんな感情をうち捨て、滅私報国を叫び出したのでしょうか。残念な思いです。

## ハロー注意報⑤

——進駐軍がいた町のはなし

# わが家の日米交流

松岡初枝

日米の交流はギクシャクした手探りから始まったが、何年か過ぎる頃には自然体になっていった。将校達が乗る車の運転手やボーイラーマン、工事に携わる人、ハウスメイド、通訳、いろいろな業種で生活の糧を得る人が多くなったと共に、家族ぐるみでの人間関係が深くなっていった。

ある時、歯科医兼通訳として基地に通っているAさんが、妻と一緒にやって来た。奥さんは店の客だったので、単刀直入に来店の用件を話し始めた。「大先生、リチャードさんという将校さんのお母さんと妹さんが来日して、日本の花嫁衣装を着せてほしいんですって」、「衣装はあるの?」、「東京の骨董屋で買ったんですって」、「あらそうなの」。妹の結婚が決まってお式の前に来日して着物一式を買い、結婚パーティで着たいのだそう。



左列からA夫妻、リチャードさん家族、後ろ筆者の祖母

アメリカに帰る前に、きちんとした着付で写真を撮りたいので、美容師を紹介してほしいとAさんに頼んだという。「かつらや簪(かんざし)は店にあるから、小物一式は呉服屋で買います」、「そうね、あちらで着

るのにも必要だし、何しろリチャードさんの家は富豪なんですって」。着付と撮影は基地内で、と決まり、当日はリチャードさんの車で、A夫妻、祖母、助手の見習いさんと荷物一式が出掛けて行った。

リチャードさんの母と妹は綺麗な人で、日本スタイルの花嫁姿に大感激していたという。「サンキューソーマツチ、ソービューティフル!」、祖母はハグされてびっくりしたそう。母は小さいし巾が狭いから、かつらの中と小を持って行ったけど、小でピツタリ。背が高くてなあそりやあ帯が大変、「先生が飛びあがりそうでしたネ」。祖母と助手さんはケラケラと笑った。皆で写真を撮り、着付代や沢山のプレゼントをもらった祖母は「あの家族は親日家なんだって。昨日の敵は今日の友って言うけど、本当にそう思ったよ」祖母は嬉しそうだった。互いに大変な時代を過ごしたが、文化への敬意を持つ家族に感謝したいとも言っていた。

後日、妹の結婚式出席のために一時帰国するリチャードさんから、一緒に来て着付をしてくれないかという打診があったが、パスポート、ビザ、予防注射などの手続きに時間が必要だった。アメリカ大使館へ掛け合っ

てくれたが、一民間人への特例などありようも無くタイムアップ、祖母は泣く泣く諦めた。「あーあ、費用は全部あちら持ちだっというのに...」この後悔はずっと祖母の心の中でくすぶっていた。祖父は「あれで良かったんだよ。何しろハネツ返りのバアさんは、帰りたくないなんて言いそうな勢いだっただもんなあ...」。いつもの事だが、おっとりした祖父、新しい物好きの祖母は、車のブレーキとアクセルのような二人の関係を楽しんでるように見え、今思い出しても迷コンビだったなあと思う。

それから二年近く過ぎた頃、今度は私のところにアメリカと日本の少女が、日本人形を通じて交流する様子を記事にしたいと、基地のプレスから依頼があった。「行く行く、やったー」ここでも調子に乗ってすぐOKした。撮影とインタビュは、人形屋のOさん宅で夏なので浴衣(ゆかた)を着てほしいとのことだった。日曜日の午後、Oさん宅へ行った。アメリカの少女タビーちゃんは小学二年生、私は三年生、記者でカメラマンのトムさんはタビーちゃんのお父で、楽しい小太りのおじさんだった。「ファッチュアネーム?」通訳が「お名前は?」、「はつえ」、「アツエ?」。



左が筆者で右がタビーちゃん



左が祖母で右がタビーちゃん

祖母が横から「はっちゃんていいよ」「ハッツアン?」「あらまあ長屋の花見だネ」。日本勢は大笑いしたが、アメリカの二人は「?」。通訳が笑いながら説明すると二人も笑った。「ハッツアン」はトムさんがずっと呼び続けたので、祖母はしばらくハッツアンと言って笑っていた。

人形屋のおじさんとおばさんが畳の上に人形を並べ、タビーちゃんと私は左右に座って写真を撮る。トムさんは笑いながら「スマイル・ハッツアン、スマイル・タビー」と言いながらシャッターを切る。「グーッド・ハッツアン!」と親指を立てた。私とタビーちゃんはすっかり仲良くなつて、手を繋いでいると「タビー、着物着せてもらったら?」と通訳が言った。「あら、それじゃ着せてあげるよ」祖母は言うが早いか私から浴衣を剥ぎ取りタビーちゃんに着せた。嬉しそうに袖をヒラヒラさせたタビーちゃんに「蝶々みたいだね」と私が言うと、トムさんも「ルックスライク、バタフライ!」パチパチ写真を撮りながら、トムさんはウインクをした。「浴衣、もう一着持って来れば良かった!」祖母は浴衣をプ

レゼントした。私は西川流の日本舞踊を習っていて、浴衣は何着も持っていた。その日着た浴衣は去年のお揃いで、今年の浴衣復習(ゆかたざらい)の新品がある。タビーちゃんの嬉しそうな姿を見ると嫌とは言えなくなった。

夕方までインタビュアーや撮影が続き、その様子がアメリカや基地の新聞に載り、何かとても誇らしく思った。それにしても、もし戦争が無かったら、こんな交流は無かつただろう。戦争なんて無いほうがいいに決まっているが、二人に会えて楽しかつた分、複雑な思いが入り乱れていた。前に貸本屋で借りた「ロボット二等兵」という漫画のロボットは日本兵で、敵の弾に当たったが死なずに倒れている所を敵に助けられた。敵方となったロボットは悩み、どうしたらいいのかわからず逃げ回った。私は小学生なりにロボットと同じ葛藤を感じていた。子供なりに考え

でも答えは出ない。負けた日本と仲良くしてくれるアメリカの人達、ついこの間まで殺し合っていたのに、今は笑って話し合っている。今思うと私が育った時代や環境がそうさせたのだろうか。私が今こうして暮らしているのは父や母が生きていたからだ。タビーちゃんも、トムさんと母が生きていたから今ここに居る。そんな思いでしばらくの間考え続けた。

それからというもの、私は本の虫となつた。貸本屋へも足繫ぐ通つた。本の中に答えを見出そうというよりも、面白かつたのが先だが、何よりもワクワクした。Kや松永のおじちゃんが、本を読みなさいと言つたのはこれだ、と思つた。祖母の弟、かっちゃん大叔父はいつも新宿から本を買つて来てくれた。耳の悪かつた大叔父も本の虫で、私の本好きを嬉しそうに応援してくれた。日米交流という形で出会つた人達を通して、私の興味は大きく膨らんでいった。

タビーちゃんはトムさんと同じようにジャーナリストになつたかな。今でもあの時の浴衣を持っているかな。私の思い出の中の彼女は、笑うと少し隙っ歯で、クスツとはにかんだチャーミングな姿のままなのだ。

「倉田百三の本はありませんか？」

初見の若い外人客に、流暢な日本語で話しかけられて驚いた。事情を聞けば、彼の祖父がGHQ(連合国最高司令官総本部)、俗にいう進駐軍の通訳をしていて、日本に駐留中に倉田百三の「出家とその弟子」を読んで感銘を受け、本をシカゴの自宅に持ち帰った。祖父から話を聞いた彼は、倉田百三の本を自分の力で読みたくて、日本語の勉強を始めたのだという。そして、大学で日本文学を専攻した。

「田園文化センターの『倉田百三文学館』にも行って来ました」

何度か日本に来たことはあるそうなのだが、敬愛する文学者である倉田百三の郷里を訪れてみたいと以前から思っていたようだ。

「どんなところに感動したのですか？」

「出家とその弟子」は、浄土真宗の開祖である親鸞(しんらん)と、その弟子唯円(ゆいえん)、親鸞の息子の善鸞(ぜんらん)が主要登場人物で、親鸞親子の葛藤と、唯円の信仰と恋愛との軋轢を題材にした戯曲である。

「親鸞聖人が、自分の弱さを認めているところですか。唯円の相談に対し

て、私もさびしいのだよと答えています。このさびしさは一生続くのだろうとも言っています。修行を重ねた大聖人でさえ、心の安らぎを得ることができない。そこに人間の本質があるのだと思いました。人間の深い悲しみとカルマ……、業が描かれています」

参りましたと心の中で頭を下げた。彼の祖父の本は角川書店の文庫本で、

## 好敵手

現代御伽草子 ⑨2

あきふゆひこ  
亜木冬彦

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

岩波書店から大正時代に発行された

函入りの「出家とその弟子」を買ってもらった。その他にも「一枚起請文・

歎異鈔」(大東出版社)、「布施太子の入山」(岩波書店)をご購入である。

「それから、将棋の本が欲しいのです」

パソコンソフトの将棋に熱中しているという。初段クラスで勝ったり

負けたりというから、かなり強い。

しかし、コンピュータの相手ばかりで、人と対局したことは一度もないという。

「じゃあ、わたしがお相手しましょうか？」

彼がニッコリ笑い、わたしは「ご用の方はチャイムを鳴らしてください」の立札をレジに掲げた。

将棋盤も駒も、古くて使い込まれ

り、彼がピーター・ブラウンと名前を告げた。思わず笑ってしまったらしい。怪訝そうな顔をされて、「ピーター」という知り合いがいるものですか」と言い訳をした。小学生のときの友達が飼っていた犬がピーターという名前で、小太りの体と大ぶりで愛嬌のある顔の輪郭が、どこか似ている。

「一応わたしが上手(うわて)ということで、先に並べさせてもらいます」

王将を取り上げて、盤上の一段目中央に据えた。ピーターが玉将を取り上げてわたしに倣う。駒を摘まむ動作も真似ようとするが、なかなかうまくいかない。

「王将と玉将の二種類あるのはどうしてですか？」

「諸説あるようです。元々は玉将が二つだった。玉は宝石を意味し、玉座は国王が坐る椅子、つまり玉将は国王のことです。南北朝時代に『天に二君なし』……、つまり国王が二人いるのはおかしいというので王将になったという説が有力です」

駒を並べ終えた。「よろしくお願

いします」とわたしが一礼すると「どういたしまして」とピーターが頭を下げる。まあいいか、と苦笑をうか



べて、先手を促した。礼節は大事だが、堅苦しいのも窮屈だ。ピーターが飛車先の歩を突く。ピーターが居飛車、わたしが四間飛車の本格的な駒組が完成した。

「将棋に魅力を感じたのはなぜですか？」

ピーターに尋ねた。

「チェスをやってたんです。でも、将棋の方がはるかに複雑で奥が深い。取った相手の駒を使えるのが素晴らしいアイデアです」

わたしは深く頷いた。

「升田幸三という天才棋士がいました。戦後に棋士の代表として、GH

Qの高官に呼び出された。そこで、将棋の取った駒を再利用するのは、捕虜虐待ではないかと詰問されたそうです。軍国主義の元になった日本の精神文化を破壊することで、日本人を骨抜きにしようとした。標的は将棋だけではなく、武術、歌舞伎の『忠臣蔵』や『勧進帳』、剣術映画、そして、針灸までも禁止しようとした……」

相手から取った角を、ピシりと急に打ち込んだ。

「取った駒を排除するチェスこそ、捕虜の虐待、いや虐殺ではないか。将棋では、つねに全部の駒が生きている。これは能力を尊重し、それぞれに働き場所を与えようという思想だ。敵から味方に移ってきてても、金は金、飛車なら飛車と、元の官位のまままで差別なく仕事をさせるのだから」

升田幸三の自伝で読んだ内容を、できるだけ正確に伝えようとした。升田の説明に納得したGHQは、将棋を禁止することはなかった。

「最後に升田さんは、戦犯で捕らえた人たちもできるだけ殺さないで、生かして役立てる道を考えてほしいと言ったそうです」

「サムライですね」

ピーターがニヤリと笑って、わたしから取り上げた飛車を打ち込んできた。見よう見まねの駒さばきも、次第に様になってきて、高い駒音を響かすようになった。

(これは強敵だ)

コンピュータ将棋で鍛えられているからだろう。形よりも実利でゴリと直線的に攻めてくる。雑談をしている余裕はなかった。二人とも盤面に集中して、一心に次の最善手を読んでいく。

優勢は自覚していた。決め手はあったのだろうが、安全策を求め形勢がまぎれた。それでも「詰めろ」をかけて勝ったと思ったのだが、最後は七手詰めで豪快にうちやられた。スマホの詰将棋のアプリで鍛えているようで、終盤の読みが正確で間違いがない。

わたしが「負けました」と頭を下げると、「ありがとうございました」と心底、嬉しそうな顔をする。どういたしまして、と心の中で応えた。

「もう一番、いきますか？」

「はい」

ピーターが顔を輝かせる。わたしは王将を取り上げると、無言でピーターに差し出した。

## まちの古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
  - ・地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日(2月は店内整理で全休)
- TEL: 090(9913)3052
- 営業時間 9:30 ~ 18:30

※広島銀行庄原支店の手前(三次側から)※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

# 「旧暦」のカレンダーを見る

古川行洋

## 第二部 歴史事項を見る

五月の回1 (全2回)

五月五日 元弘の乱 元弘元(一

三三二)年

後醍醐天皇が鎌倉幕府討伐を企てた内乱。日本の南北朝で南朝の年号、元徳から改元。元年(一三三二年)八月九日(四(一三三四)年一月二



十九日。次に建武に改元。この四年間の時代、後醍醐天皇の討幕計画が挙兵の段階にまで進んでいた。そして、笠置山に後醍醐天皇とともに立て籠もった兵力はたかが知れていたのに、鎌倉幕府は攻略できず、一ヶ月近い苦戦を強いられ幕府の威信は失墜した。

結局、後醍醐天皇は敗れ、隠岐の島に流される。この挙兵は従来から幕府に反抗的であった畿内の土豪武士の広汎な決起を促すことになり、反幕闘争を継続して国内に反乱の機運を醸成させていった。後醍醐天皇はその後脱出、楠木正成らが挙兵して幕府は滅び、建武の親政が実現した。

五月十五日 承久の変 承久三(一二二二)年

後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして、かえって北条義時に敗れた戦乱である。

鎌倉幕府第三代將軍源実朝の暗殺前後から、ぎきしやくしがちだった

朝幕関係がついに決裂した。五月十四日に討幕の兵を挙げ、翌日北条義時追討の宣旨(せんじ)・院宣を諸国に下した。この計画は、「院の執権」実力者藤原光親、「院の近臣」僧侶の二位法印尊長、北面の武士藤原秀康らで練られた。これは、後鳥羽院のなかでのみ周知して、朝廷の大勢は聞かせてなく、計画には反対だったようである。

朝廷軍の主力は、仁科盛遠、和田朝盛(とももり)ら北条氏に恨みを持つか、あるいは滅ぼされた御家人の一族、院直属の北面・西面の武士、御家人に組織されていない畿内・西国の武士で、数字上は十分幕府軍と相拮抗できるはずであった。上皇方は宣旨・院宣の効果に絶大の自信をもっていて、味方の兵の読みは全て卓上の計算であった。現実の、一説の十九万と言われる幕府の大軍の報せで完敗した。朝廷の権威は大幅に下落し、後鳥羽上皇以下、三上皇の流罪という、かつてない強硬な措置を幕府は執った。幕府方も、元仁元(一二二四)年執権北条義時が没し、嘉禄元(一二二五)年幕府創立以来の老臣大江広元が没し、一ヶ月後尼將軍政子も病没し、激しい世代交替の波が押し寄せた。

五月二十一日 長篠の戦 天正三(一五七五)年

織田信長・徳川家康の連合軍と武田勝頼軍の合戦。信長・家康の連合軍三万八千と勝頼の軍勢一万四千が設楽原で衝突した。結果は織田側が圧勝。武田の騎馬隊に対する織田側の鉄砲隊の威力は、以後の戦術・戦法に画期的変革をもたらした。

武田勝頼は、天正二(一五七四)年三月、前將軍足利義昭から「上杉・北条と講和して幕府再興のため協力せよ」との御内書(私文書様式の書状)を受け取った。名分を得た勝頼は、翌三(一五七五)年四月、一万四千の將兵を率いて信濃から三河に侵入し、五月八日長篠城を包囲した。長篠城の危機を知った家康は、信長に援兵を求め連合軍三万八千で救援に向かった。

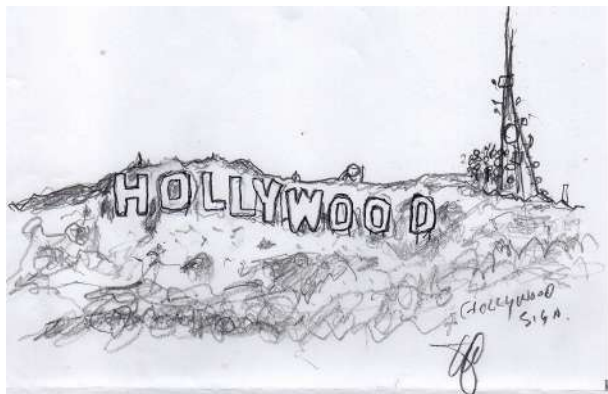
信長は最前線の連子川に沿って二重・三重の乾堀を掘り、土居を設けて馬塞ぎの柵を構築し、鉄砲隊三千人を配置した。鉄砲三千挺を三段に分け、一段目が撃つ間に二段目は点火して構え、三段目は弾を込めるといふ、反撃の猶予を与えない「三段装填法」の新戦法をとった。勝頼は主従わずか六騎で甲斐に遁走した。画像は「長篠合戦図屏風」の一部。

# 本家のユニバーサルスタジオ

マック☆ヤマザキ

キング・コングを主人公にしたユニバーサル映画社は特殊撮影技法を編み出した。その時のバックヤード(裏の仕掛け)を公開して、ちゃっかりと金もうけをする経営をあみだしている。その方法とは、園内をめぐるトラムカー(連結トロリーバス)に観客を乗せ、同社が製作した映画の数々の作品、特に恐怖の場面に遭遇させる。

音響効果や火薬を駆使した爆発



シーンに、腹の底から「キャー」、「ワオー」と大声をあげさせる。地震を想定した不規則な動きには、阪神大震災で自宅マンションがピサの斜塔のように傾いた私にとっては特に、悪夢の再現“だった。でも、これらの一連の体験が終わると、肩の凝り、悩みごとなどがすっきりと無くなり、体が軽くなったようでスキップでもしたい気分。

アトラクションはまだ続く。トラ

ムが予告なく田舎の村で停止。「どうしたの?」と思わせて、農家の庭から水が流れ出た。水流はトラムに向かかって濁流となって押し寄せて来て、トラムにぶつかり「バシャー」と大量の水しぶきがとびちった。トラムは海の中に浮いている。静寂が漂う……、はるか向こうから「背びれ」が向かって来る。大きな口から牙と歯をむき出した人喰いザメ(ジョーズ)が襲ってくる。観客を十二分に脅かした後で、背びれが去って行く。そしてどこからか悪臭。ジョーズが食い残した獲物の「腐敗臭」とトラムのガイド兼運転手のおねーさんが種明かしをすると、また「オーマイゴッド!」と観客は水でぬれた自分たちの衣服のことを忘れて感心するのだ。

今体験した恐怖を癒すかのように、南米アンデス山脈の空を悠々と滑空するコンドルを主人公としたフォルクローレ(民族音楽)の「エル・コンドル・パサ」(コンドルは飛んでいく)が奏でられている。わたしはこの楽曲が大好き。しばし生演奏を楽しみながらのスケッチ、彼らの足元に無造作に置かれている集金箱に「おひねり」を入れておいた。

快い音楽を聴きながらのスケッチ

は、引率している学生のことなどまったく忘れて(ゴメン!)最高の気分になさせてくれた。南米ペルー又はボリビアからの大道芸人で、「チャランゴ」というアルマジロの甲羅を貼った弦楽器、「ケーナ」という縦笛、「サンポニーヤ」という十数本の葦で束ねられて作られた吹奏楽器を伴って、彼らは今でも世界中に出稼ぎしている。

日本でよく「アメリカにもユニバーサルがあるの?」と言われるが、1933年に開業したユニバーサルスタジオ・ハリウッドが本家である。ユニバーサルスタジオ・ジャパン(U S J)の日本進出は2001年で、23年前のことである。

ハリウッドには看板(ハリウッド・サイン)が丘の上にそびえている(スケッチ)。これと同じような看板がわが町、東城にもある。「竹屋饅頭」の看板(写真)がそっくり?ハリウッドと東城がこんな形で結ばれるのも悪くないですね。

そして、現地ガイドさんから日本人観光客へのお願い。ロスアンジェルスのことを「ロス」と略さないでほしい。英語のロス(Los)は、死、損失、敗北等を意味するから。私も気を付けます。

# どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

灯台の直立不動青岬

近藤 昌平

追伸に千島蒲公英咲きましたたんぼぼ

富久光

春雨やひとり聴き入るクラシック

片岡 正人

春惜しむ四隅突出墳丘墓

隆愚

芸備線の土手蔭の臺の数多

大槇 三代子

風光るカープ電車に今年こそ

寺内 龍二

ぼんぼりや桜並木の果つる先

赤川 冬人

水管を伸ばす浅利を汁にする

松岡 初枝

この罪深き味よ旨さよ

## 投稿&寄稿

候のことば

「木の葉採り月」

隆愚

旧暦の七十二候に「蚕起食桑」(か  
いこおきてくわをはむ)の候があり  
ます。小満の初候で五月二十一日か  
ら二十五日ごろの事です。ちょうど

この時期にあたる旧暦の四月は、木  
の葉採り月という別名があります。  
蚕の餌である桑の葉を摘む頃という  
意味です。養蚕は戦前まで日本で盛  
んで、沢山の桑畑が広がっていまし  
た。

庄原には蚕業試験場という公的機  
関がありました。三日市には製絲工  
場があり、沢山の娘さんが働いてい

ました。小生の家も蚕を飼って繭を  
出荷していました。

東北では、蚕の神様を「おしらさ  
ま」と呼んでいました。蚕は何千年  
も飼育されてきた為、人に飼われる  
事では生きていけなくなったとい  
う虫です。桑が新芽を出す頃に孵化  
する様に調節されてきたそうです。  
地方によつては、小学生も「お蚕休  
み」といって学校を休んで手伝う程  
の忙しさだったそうです。

まゆひとつ仏のひぎに作る也

小林 一茶

「九日市の漬物」 赤川 仁洋

健康法について、以前の風潮が  
ひっくり返ることがよくある。例え  
ば睡眠時間。メジャーリーグの大谷  
翔平が、疲労回復でよく眠るのが話  
題となった。睡眠は大切だ。日本人  
の睡眠時間は短かすぎる。かつては  
逆に、睡眠時間を短くして、活動時  
間を長くすることがもてはやされた  
時代がある。

体形についても、以前は成人病の  
原因のように言われた小太り体形  
が、体力があつて長生きできると言  
われている。タンパク質や脂質が大

事だと、肉食を推奨。これも、以前  
は日本人の主食中心の「粗食」が健  
康食としてもてはやされた時期があ  
る。

わたしの昼食はいつも「素食」。  
店の昼休憩が短いので、前日の残り  
の冷ご飯をチンして湯漬け。これを  
九日市で購入した地元の漬物で食べ  
る。白菜漬けや梅干しにキムチ、こ  
れに冷奴やめざし、鯖の味噌缶の一  
品でも加えれば十分、ミネラルたっ  
ぷりの贅沢な食事だと思つている。  
体質は千差万別、自分にあつた健康  
法があるはずである。



# どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など  
情報掲示板です。

## どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して  
いるので、ダウンロードして  
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

## 「庄原を想う会」主催の交流会

「気軽に庄原について話し、仲間の輪を広げよう」

日時：6月29日(土) 9:30～11:30

テーマ：「古事記に記された庄原の御陵について」

講師：徳永昭氏

(よりんさい比婆の里店主)

場所：生活交流館1

(備後庄原駅隣接)

参加費：500円

(学生200円、お茶菓子代込み)

申込み&問合せ：080-3631-9125 (やない)



ざけくらべって  
なんじゃる?  
庄原の地酒を  
先試してみたい  
お楽しみ会

なっり、分  
に、い  
自、お  
分、置  
な、を  
来、て  
酒、を  
さ、し  
か、お  
酒、を  
た、ま  
り、し  
た、い  
だ、べ  
く、ら  
べ、

庄原酒販..... 利き酒・試飲イベント

# ざけくらべ

IZAYOMI SHOBARA-CITY SAKE MARCHE

第8回

5.18

土曜日

昼13時より夜19時まで

5.9

木曜日

朝9時より

お酒のお話

し・ま・せ・ん・か?

出演グループ、出店、フード  
キッチンカー〜随時募集中!  
←DMにて受付中です

comeme  
市場

場所・お問い合わせ  
庄原酒販有限公司  
庄原市中本町1-8-1  
☎(0824)72-2183

## 東京藝術大学卒業記念コンサート

～庄原市出身の切田光星（三次高校出身）が  
東京藝術大学の同級生と共に贈る声楽アンサンブル～

出演：切田光星（バリトン）、塚田信司（バリトン）、上杉武（テノール）、米倉令真（ピアノ）

日時：6月15日（土）午後2時開演（午後1時半開場）

場所：庄原市民会館（0824-72-4242）大ホール

演目：荒城の月（瀧廉太郎）、鐘が鳴ります（山田耕作）、  
歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」（モーツァルト）より、他。

チケット：一般1500円、高校生500円、中学生以下無料

販売：ジョイフルながえ、庄原市民会館、サングリーン三次 主催：里山まちづくりの会



## 編集後記

◇年齢を重ねて出不精  
になってきたので、本  
誌の取材が背中を押し  
てくれます。今年も素  
晴らしい桜を観ること  
ができました。

◇前回の「ハロー注意  
報!④」、筆者の父親  
の所属部隊は「衛生兵連隊」  
ではなく「近衛工兵連隊」、  
初期配布の冊子は無修正、申  
し訳ありませんでした。

◇音谷健郎さんの『文学探訪、  
「庄原」と百三の青春』の小  
冊子、5月初旬に作成&「庄  
原市田園文化センター」にて  
配布予定。どら書房でも希望  
者に配布します。

◇どうも、天気が悪い日が多  
いという印象ですね。五月に  
は「五月晴れ」を期待。ただし、  
去年のようないきなりの「猛  
暑」はノー・サンキュー。

発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052(赤川)

e-mail: touzin@nifty.com

誌面デザイン: ROUTE183

協賛: 九日市愛好会

第272回

くんちいち

# しょうばら九日市

出店予定一覧（順不同）

- ・文屋
- ・郷屋
- ・ぬくもり
- ・ちくちくはうす玉手箱
- ・お福
- ・工房アム
- ・農楽会
- ・二八そば加工所
- ・とらち

- ・健康企画グループ
- ・里山キッチンほっぺ
- ・久代水産
- ・くんえん工房 香豚
- ・克国水産
- ・田崎屋
- ・宮川屋
- ・和み屋
- ・どんぐりーず
- ・クラフトショップ

- ・くららおばさん
- ・てしごと比和
- ・アーミッシュ
- ・満じいの手打ち蕎麦
- ・柳家
- ・かぐや姫
- ・17KICHEN
- ・鮎屋
- ・健康企画グループ
- ・TSUDA



◇着物レンタル（着付けあり）

場所：楽笑座 時間：9時～12時

レンタル料：500円

※和装で九日市散歩を！

5月9日(ホ)

9:00～13:00



## TOPICS

- ★市民ギャラリー「アート多愛夢」  
5月8日(水)～10日(金) 10時～15時  
「香花の四季」
- ★利き酒・試飲イベント「さけくらべ」(庄原酒販)  
ガレージセール同時開催(場所:旧松本額縁店)  
高野名物「アップルパイ」も販売します！
- ★HONMACH STAND→コーヒー100円引き
- ★カフェクラウド→タピオカドリンク100円引き  
九日市特製ピタサンド600円
- ★どら書房、休憩室(漫画ルーム)あります！

\* 出店申込みは、【毎月20日締切】 コンパネ1枚スペース1,200円～  
九日市愛好会事務局 TEL/FAX(0824)72-8285  
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 (楽笑座内)

【ホームページ】  
<http://www.kunchi-ichi.jp>

